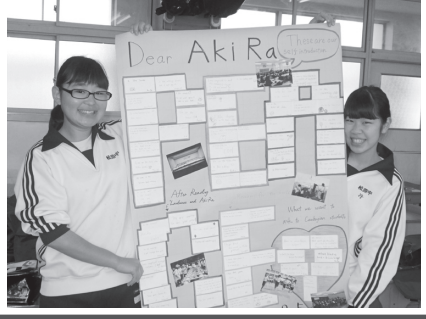
英語指導のスパイス

アキラ氏への手紙

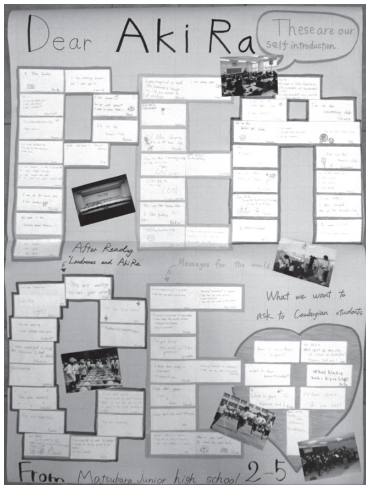


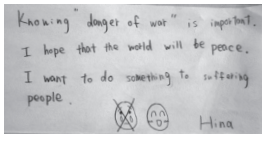
SPICE

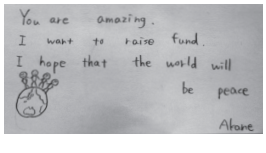
山﨑寛己　Yamazaki Hiroki　（大阪府松原市立松原中学校）

教科書と現実世界をつなげたい。そんな思いから，アキラ氏へ手紙を書くことに取り組んだ。すると勉強が苦手な生徒たちも，「ほんまに届くん！？」と目を輝かせた。英語が，教科書の中や，外の世界の言葉だと感じる壁を取り払われたような，そんな気持ちだったのだろうか。

どんな読み物でもそうであるが，その分野に関する背景知識を得ることは，読む上で非常に有効である。今回の *NEW CROWN Book2*, Landmines and Aki Ra を読みこなすためには，地雷のこと，カンボジアの戦争のことを知ることが必要不可欠であると感じた。『アキラの地雷博物館とこどもたち』（三省堂，2005）には，教科書の内容に加え，アキラ氏の幼少期から現在に至るまでの様々なエピソードが綴られている。彼に手紙を書くからには，彼自身のこと，地雷のことをもっと知らなければならないと，日本語の書籍の内容も援用しながら授業を行った。







教科書を読み進めていきながら，徐々に生徒の「書きたい」という意識が高まっていることを感じた。しかし読み手のことを考えれば，紋切り型の内容の手紙を生徒全員が書くことは相手意識に欠けると考え，クラスで１枚の大きな手紙を作ることにした。以下がその手順である。

①小さな紙（縦 5cm ×横 10cm）を用意する。

②４つのパート：(1) 自己紹介，(2) 教科書の感想，(3) 平和のメッセージ，(4) カンボジアの中学生に質問したいこと，に分け，(1) の自己紹介と他に１つを選んで書かせる。

③模造紙に，②で書いた紙をパート毎に貼り，手紙にする。

これなら５クラスで５枚の大きな手紙を送ることになり，アキラ氏も読みやすいと判断した。しかも全員が描いて初めて，クラスの手紙が出来上がる。どの生徒も，自ら書く英語が外国の，それも教科書に出ている人物に届くということで，いつも以上に真剣に取り組んだ。

これまで様々な場面で，英語で書いたり，話したりすることには親しんできた生徒たちだったが，今回の作業は，こちらの想像以上に達成感があったようである。あまりにも日本とかけ離れた現実がカンボジアにはあることを，彼らが分かったからかもしれない。

I think it's very difficult to remove all landmines in Cambodia, but I hope that they are removed someday. So I want to raise fund.（生徒の手紙より一部抜粋）

教科書の内容と日本の生活では考えることのない現実を目の当たりにし，中学生なりにできることを考えて綴った結果が，そこには確かにあった。教科書と生徒をつなげる工夫は常にこちら次第である。